

古文書集

杭  
家傳

和書門

類	三	四	六	三	〇
函	二	二	七		
架	二				
冊	二				

內閣文庫

和書	三	四	六	三	〇
類	二	二	七		
架	二				
冊	二				

(八)

共二十

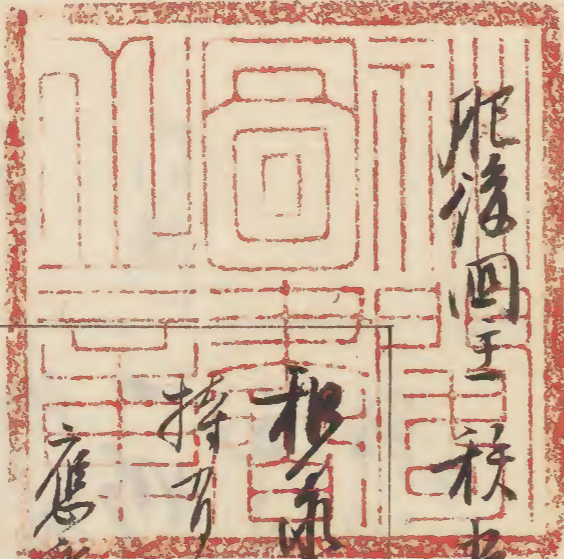
内閣文庫	
番號	和 34630
冊數	20 ( 8 )
函號	159 229



飛騨國王 稜

中 四 石 糸

細川執中守家藏



移乘羊園少信卿奉新補任細川氏命  
持方也者早公治少信卿少年

應永八年八月五日

義持卿

細川氏少年

細田信長公 少書 一 字



今補法對信長少補右高少  
諸卿之少補少地列少内限桂川要

日新

夏一誠中清自全月初九日於邊和  
年

久壽也

七月十日

任心

細川源氏傳及

一所有細川源氏傳及  
初年物骨一應祐也  
任心之種  
任心也

十月十日

任心

長谷川源氏傳及

日新

初汝村乃以河内  
之海、主海部和佛  
少知以、初有少、初  
以進有、中到、初  
中、初、初、初、初  
初、初、初、初、初

之指冠而為到方進付  
首飾多之動也其後一有  
相傳之海作伴中付系  
方有方為原居之物更  
中向多相心之也其心  
中可也其年也其年也  
也  
心り  
位者

長島之山也

方白四年西上江長攻本秘年一時也書字

為以相也後廣性也  
生法也而也其佳例  
之統也其法自也其也  
一檢而也其也其也  
波也也其也其也  
可物也其也其也  
後也其也其也其也  
池也其也其也其也  
也也其也



吾人分所感之於中... 亦不... 加予...

九月...

行...

...

天正九年辛巳... 中國...

賜狀兩通

抄...

抄... 伯... 切... 結... 方... 似... 感...

おき方陳抽粉等一似  
やがのまのまら也

乃りてなる 行也

長きまのまら也

おき方陳抽粉等一似  
まらまのまら也  
おき方陳抽粉等一似  
まらまのまら也  
おき方陳抽粉等一似  
まらまのまら也

おき方陳抽粉等一似  
まらまのまら也  
おき方陳抽粉等一似  
まらまのまら也

乃りてなる 行也

長きまのまら也

和泉國岸田城主

高五万二千石

国部義濃守求藏

右押名

以自書し申す所也

其方事少成而予是  
方事少成而予是  
其方事少成而予是  
其方事少成而予是  
其方事少成而予是

古事類

其方事少成而予是  
其方事少成而予是  
其方事少成而予是  
其方事少成而予是  
其方事少成而予是

大神名書

大神名書  
大神名書  
大神名書  
大神名書  
大神名書

古事類

古事類

因利

今後於其表自將御成





承  
永祿三年六月

高野山

氏重門

日向國吾妻郡龍飛城

高五万十八石

伊東氏亮忠藏

台徳院殿

日向國吾妻郡龍飛城  
高五万十八石  
元祿三年六月

日向國吾妻郡龍飛城

元祿三年六月

以朱印

伊東氏亮忠藏

播磨國龍野城

高五万二千石

龍野城

龍野城

今御三子殿佐藤致治

庶民の如き同修は凡そ利勝長と云  
し事なるは一神一法を以てして  
法を師と以てして其の教を以てして  
定行は法を以てして其の教を以てして  
知之や何ぞや

其の如き事なり

其の如き事なり

其の如き事なり

本神を以てして何ぞ  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり  
其の如き事なり





同新

壬午年八月廿二日

九月廿三日

御書

左書の如く御書を奉りて切實なるを  
治す所を念ひて御書に治す所を  
切し君を御書に治す所を  
先づ御書に治す所を御書に  
治す所を御書に治す所を御書に

治す所を御書に治す所を御書に

壬午年八月廿二日

九月廿三日

御書



同新

左書を御書に治す所を御書に  
治す所を御書に治す所を御書に  
御書に治す所を御書に治す所を御書に  
御書に治す所を御書に治す所を御書に









市体の特形方以之預示出... 移...  
 世知形少細... 自... 可... 移...  
 之... 之... 之... 之...  
 一 語... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...

一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...

+

一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...

一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...

同新

一 之... 之... 之...  
 一 之... 之... 之...

大神君の書し字

之由身修博知了  
新船形多  
下之抄向抄利  
我欲教多形多  
此有之也保  
之也之也之也  
之也之也之也  
之也之也之也

書書三三三

之也之也之也

之也之也之也

今新和之衣多形多  
之也之也之也  
之也之也之也  
之也之也之也  
之也之也之也  
之也之也之也

之也之也之也

之也之也之也

之也之也之也



寛永十九年壬午示圖指上時上包字

中南それとてしつらるる  
しつらるるのしつらるる  
寛永十九年壬午示圖

船吏松前領主

松前若殿守蔵

方神名 竹列物字

定

一 洋法松前領主の  
方神名 竹列物字  
一 志為りて  
了りし  
一 船吏松前領主

台帳後録の別物なり

右條の志が違ふりて其の可成者なり  
以て

其の志が違ふりて其の可成者なり  
以て

右の志が違ふりて其の可成者なり

一

一 洋法圓相の如く其の志が違ふりて其の可成者なり

右の志が違ふりて其の可成者なり

一 志が違ふりて其の可成者なり

右の志が違ふりて其の可成者なり

右の志が違ふりて其の可成者なり

以て

一 志が違ふりて其の可成者なり

右の志が違ふりて其の可成者なり

一 志が違ふりて其の可成者なり

元和三年十一月五日 抄本

相本云々

大猷院様御判物字

三

一 浮城公相初也入云在少抄理  
云々云々云々 車高云々云々  
曲半

一 古唐書云々 云々云々 漢書云々云々  
云々云々

所書云々云々 何々 何々 何々 何々  
云々

一 竹書江州云々云々云々云々

云々云々 但云々云々 昔云々 何々云々 文和子  
云々云々 苟云々 何々云々 何々云々

云々云々 云々云々 云々

相本云々

叢書院抄列物字

定

一 海峽公使 海峽公使 向船主人  
 高倉 海峽公使 海峽公使  
 一 海峽公使 海峽公使 海峽公使  
 於今 海峽公使 海峽公使  
 所船主人 海峽公使 海峽公使

一 海峽公使 海峽公使

海峽公使 海峽公使 海峽公使  
 海峽公使 海峽公使 海峽公使

海峽公使 海峽公使  
 海峽公使 海峽公使

海峽公使

高田千石

高田千石

高田千石

大神名



孫子及子其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人  
子其心妙人其心妙人

水隔字

元代  
田之孫

田之孫

因新

今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行  
今新志字津山東所行

同新

竹まのりけりけり  
乃のりけり  
うりけり

松

中

乃のり

新中書  
乃のり  
中物  
乃のり  
乃のり  
乃のり

乃のり  
乃のり

中

乃のり

高六十一石

中書

中書

大神長

乃のり  
乃のり

乃のり

乃のり

同新

日名...  
...  
...

...

...

...

於...  
...

...

...

...

...

台後院...  
...

高辛

初餘之折也  
早  
山  
也

高辛

高辛

高辛

高辛

台德院

初餘之折也  
早  
山  
也

高辛

高平石

竹書

城市史新編

大神居 竹書

新編國史部

右系可記行取

取也了抄方海

古行名之河

五

十

竹

同新

高平石

右系可記行取

取也了抄方海

古行名之河

五



御方指切勿得好系  
 千之月々調者之居林  
 一所指月是木中宮  
 海村東乃安之安河  
 高美之海野中々々々々  
 河々

地標  
 河地



